

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670600164
法人名	有限会社 花
事業所名	ふれあいホーム 花
訪問調査日	平成 20 年 6 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成20年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4670600164		
法人名	有限会社 花		
事業所名	ふれあいホーム 花		
所在地 (電話番号)	鹿児島県阿久根市西目6283番2 (電話) 0996-72-7171		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月16日

【情報提供票より】20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.6	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋平屋	階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	共益費 9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (5月1日)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若松記念病院・門松医院・阿久根市民病院・久木田歯科
---------	---------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑の絨毯の上にいるような周りを自然に囲まれた所に「ふれあいホーム花」がある。庭続きの畑には、利用者の指導の下に作られた季節の野菜がたわわに実り食卓を賑わせている。職員一人ひとり利用者の思いを大切に「優しく」ケアし、居心地の良い「温かく」清潔な生活空間で、一人ひとりに合った役割や「楽しみ」が持てるように、地域の方との交流や「ふれあい」を大切にし、地元の新鮮で安心な食材で「美味しい」食事を提供します。という理念を実践するために、管理者、職員同士コミュニケーションを大切にし、家庭的な雰囲気を作り上げている。利用者の笑顔がこぼれる明るいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善点は「地域密着型サービスとしての理念」についてであり、職員全員で話し合い今までの理念に「地域とのふれあい」という文言を付け加え、地域との交流を深めている。また、調査委員からのアドバイスも受け入れ、災害時の備蓄もするようになり、看護師を職員として配置しより安心していただけるようにするなど積極的な取り組みがなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の項目別に職員の担当を決めて自己評価を行い、最終的に管理者と共にまとめあげている。管理者と職員は評価の意義を理解しており、全員で改善点がないか話し合い、「権利擁護に関する制度の理解と活用」について社会福祉協議会の職員を招いて権利擁護や成年後見制度についての勉強会を開くなど積極的に取り組みサービスの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回行われ、参加者は公民会長、民生委員、老人会長、市職員、家族代表などである。利用者の生活の様子や行事参加や地域での役割について話し合い、地域の理解を得るように取り組んでいる。運営推進会議を始めてから地域との連携も増え、地域の老人会の方々が見学に来られたり、地域の一人暮らしの方のゴミ出しを行うようになったり、台風等の災害時避難場所として事業所を使用して頂くようにするなど、地域との連携を強めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は今年発足している。家族から苦情を受けた場合は、地区の民生委員を苦情相談委員として対処するよにしている。家族から何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけており、職員の名前を呼べないのでネームを作られてはどうかという意見が家族からあがり、職員で話し合いひとり一人の顔写真をコメント入りで廊下に貼りだすことで家族に馴染んでいただけるようにするなど意見を反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周りは自然に溢れており、近所の方が畑仕事のあとに利用者と一緒にお茶を飲んで頂いたり、地区の運動会や鬼火焚き、盆踊り、ひな女まつりなどに利用者と共に参加したりしている。また、事業所としては地区の海の清掃活動に参加し、地域との交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価で要改善としてあげられ、全職員で話し合い地域の方々との交流を意識し「ふれあい」という文言を付け加え、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下、リビングに掲示し、ミーティング等でも日常的に意識付けがなされている。職員の声かけも優しく穏やかであり、理念が反映されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の運動会、盆踊り、鬼火焚き、ひな女まつりなどに利用者と共に参加し、地域の方がボランティアで踊りを披露してくれたり、中学校の職場体験を受け入れられている。また、事業所として地域の一人暮らしの方のゴミ出しをおこなったり、地区で行う海の清掃活動に参加したりして地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は評価の意義を理解しており、自己評価についても全員で取り組み、「権利擁護について」講師を招いて勉強会を行っている。前回の外部評価についての要改善も話し合いがなされ改善されている。また、調査委員の災害時の備蓄についてと看護師を職員として配置してはどうかなどのアドバイスも受け入れ改善がなされている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が行われており、参加者は地区の公民館長、民生委員、市職員、老人会長、家族代表などである。事業所の現状報告をしたり地域の行事の確認をしたりしている。運営推進会議をとうして地域の老人会の方々がホームを見学にこられるようになり、認知症についての理解も得られるようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームで勉強会を開く時に講師で来て頂いたり、施設運営にあたって助言を頂いたりしてサービスの向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「花だより」は年4回作成し、ホームで行われた行事や催し物などを掲載し精算時や面会時に渡している。金銭出納帳はすべてコピーして郵送し、健康状態についても電話や面会時などに報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は今年発足している。家族からの苦情を受けた場合には地区の民生委員を苦情相談委員として対処している。家族が意見や要望などを言えるような雰囲気作りを心がけており、職員の名前がわからないので名前をしたらどうか、という意見が家族よりあがり、すぐに話し合っ顔写真を作り廊下に貼ることで家族の意見を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継ぎの期間は十分にとるようにしているが、新人職員には、主役は利用者である事を念頭において自尊心を尊重したケアを行うように取り組んでいる。新人教育マニュアルは作成しているところである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出水地区グループホーム協議会での勉強会は交代で参加し、研修会での内容については職員会議で発表している。参加者以外は研修内容を共有している。内部の勉強会については年間計画を立てており、新人職員の教育マニュアルの作成を進めているところである。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より川薩地区グループホーム協議会も立ち上がり、勉強会、交流会を行う予定がある。また、別のグループホームの利用者、職員と共に合同でお花見をし交流を行っている。		出水地区、川薩地区グループホーム協議会での勉強会や交流会などが行われているが、職員同士が事業所の相互訪問をするなどの交流が行われることで、よりサービスの質を向上させることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前には見学にきてもらい、お茶を飲みながら交流し馴染んでから入所してもらっている。入所後、帰宅願望の強い方には職員と一緒に家に帰り、安心してもらってまたホームに戻ってくるというところを行い安心してもらうような取り組みを行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は自分から何かしないといけないという姿勢があり、掃除、洗濯物たたみ、シーツ交換を手伝ってもらったり、畑仕事で作物のつくりかたを教してもらったりしている。職員は利用者からねぎらいの言葉や、慰めの言葉をかけてもらっており、利用者の率先して手伝う姿を通して励まされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者から直接希望や意向を聞いてケアプランに反映させている。情報収集が困難な場合には家族に生活背景を聞き、職員で検討しプランに反映させ、楽しみや、生きがいを持って生活できるように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランをいつでも閲覧し、追加項目があればプラン内に記載し全職員が把握できるシステムを作っている。何か気づいた事や、変更したい内容などは連絡ノートに書いて共有している。本人、家族、職員、必要な関係者と話し合いケアプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>安定していても6ヶ月に1度見直しを行っており、必要に応じて介護計画を変更している。病状の悪化による介護計画の変更の場合は、家族、医療関係者、職員で話し合い計画を変更し新たなプランを作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成20年度より、看護師を職員として配置し、医療行為を受けながらホームで生活出来るようになり、定期的に住診にも来て頂いている。家族の要望があれば通院介助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医となっている。職員が病院受診に付き添う場合は、管理者が利用者の容体をかいて情報提供し、受診後は病院の検査結果等の情報を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と相談し、終末期の対応、急変時の対応について話し合い、全職員が共有できるようにしている。本人、家族が望む生活ができるように支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとり一人の生活背景が違うので個別性を重視して言葉かけや対応をしている。管理者は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っており、気づいた時には職員同士でも注意し合うように指導している。記録物は鍵の掛かる場所に保管し他者の目に触れないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フェイスシートを使い利用者のできること、できないこと、好きなこと、嫌いなことを個別的に把握し支援している。掃除の好きな人は職員と一緒に掃除をし、畑仕事の好きな人は天気の良い日には畑に出かけ、カラオケを楽しんだり、晩酌を楽しんだりと本人の希望やペースに添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はひとり一人の力量に応じて、お茶を入れたり、盛り付けや配膳などを手伝い、ランチョンマットやお箸、湯のみ茶碗などなじみの物を各個人が把握し利用者が進んで食事の準備を行っている。職員と利用者は同じテーブルを囲み、畑で採れた新鮮な野菜が食卓に上がり会話をしながら食事の時間を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や入浴時間は決めているが、本人が毎日入浴を希望すれば希望に沿うように支援している。入浴拒否される利用者には、時間をおいて声かけしたり、職員を替えて声かけをするなど工夫しているが、無理な入浴はしないように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活の中で一人ひとりの力量に合わせ役割や楽しみ事気晴らしの支援をしている。職員と一緒に洗濯物を干したり畳んだり、配膳を手伝ったりテーブルを拭いたり役割をもち生活に張りをもたせている。生活歴を活かしらっきょう漬けや梅干作りで力を発揮してもらっている。時には、お花見やそうめん流し、温泉につかる事で生きる活力となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭続きの畑に天気良ければ毎日のように行き、時には近所の方と会話し一緒にお茶を飲んだりしている。散歩には、見守りや手添えで出かけている。希望があれば自宅まで行ったり、食材の買出し時には交替で利用者を連れて行き買い物やドライブなど、屋内だけで過ごさず、気分転換をする良い機会を作るように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、昼間は玄関、裏口、居室の窓共鍵はしていない。玄関にはチャイムがついているが外出傾向の利用者については全職員が把握しており、どうしても外に出たい様子の時には一緒に職員もついて行き安全面に配慮している。もし職員に気づかれず外に出てしまっても、地域の方からの連絡体制は整っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回消防署指導の下、夜間想定定の消防訓練を実施している。災害時ホームが地域の避難場所となっており地域住民の協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の嗜好も考慮し、バランスよく摂取できるようにしており、管理栄養士にカロリー計算もしてもらいアドバイスを受けている。水分量は1日1,500ml以上を目標とし、摂取量については記録し職員は把握している。咀嚼機能が衰えている人にはやわらかめに調理し、嫌いな食材は別な物に替えるなど利用者一人ひとりに合わせた支援をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ、和室コーナーにはリラックスチェアが置かれている。廊下にはテーブルが配置され、飼い猫のえさと水が置かれている。リビングにはテレビとソファがあり、大きな窓から優しい光が入り、季節の移ろいを感じることができる。利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。管理者は音について配慮するように職員に指導している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の使い慣れたタンスやテレビが置かれ、家族の写真や遺影などが持ち込まれている。毎日、利用者と共に掃除をし清潔に居室で過ごせるように配慮している。		